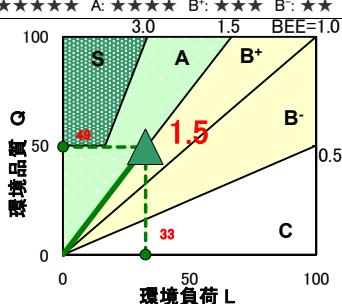
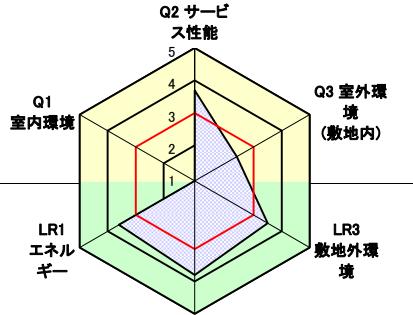
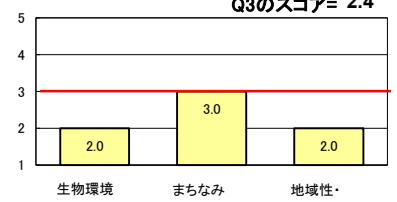
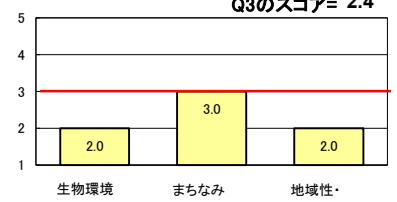
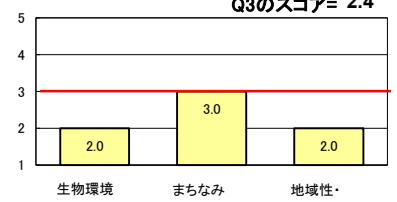
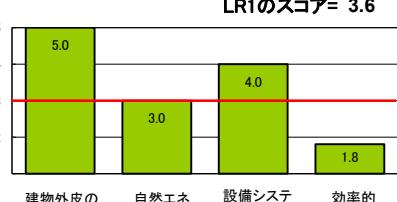
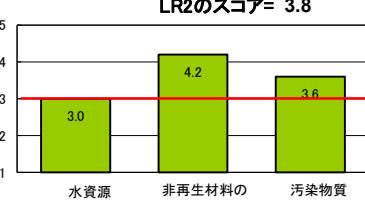
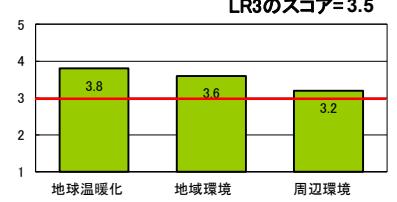
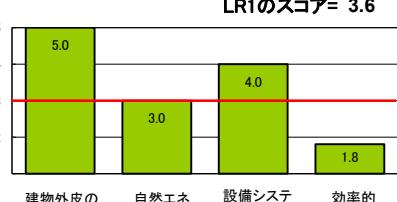
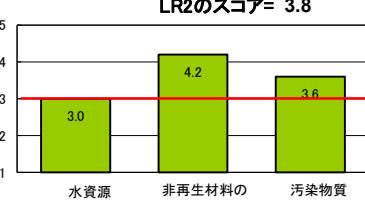
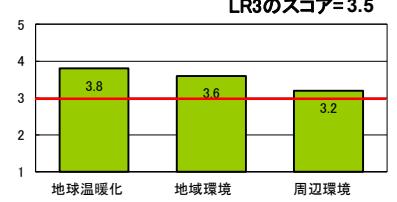
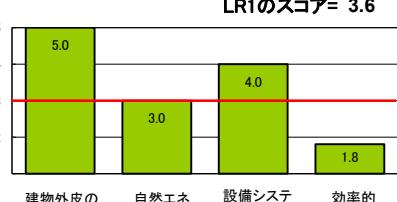
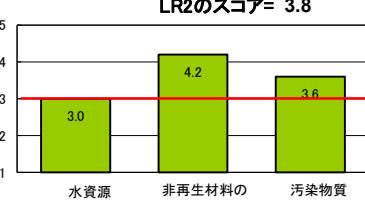
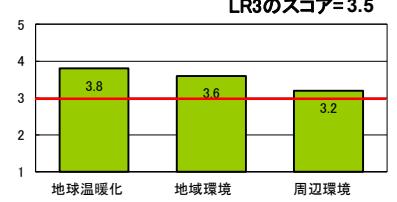


CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

1-1 建物概要		1-2 外観													
建物名称	LOGIFRONT名古屋みなと	階数	地上4F												
建設地	愛知県名古屋市港区当知2丁目1301番	構造	S造												
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	185 人												
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)												
建物用途	事務所、工場、	評価の段階	竣工段階評価												
竣工年	2025年11月 竣工	評価の実施日	2025年10月31日												
敷地面積	10,556 m ²	作成者	日本国土開発株式会社名古屋支店一級建築士事務所 米岡 真奈美												
建築面積	5,661 m ²	確認日	2025年10月31日												
延床面積	21,483 m ²	確認者	日本国土開発株式会社名古屋支店一級建築士事務所 米岡 真奈美												
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)		2-2 ホールライフカーボン(温暖化影響チャート)													
BEE = 1.5  S: ★★★★★ A: ★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★		 30%: ★★★★★ 60%: ★★★★ 80%: ★★★ 100%: ★★ 100%超: ★													
 Q: 環境品質 L: 環境負荷		標準計算 <table border="1"> <tr> <td>①参照値</td> <td>建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>②建築物の取組み</td> <td></td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>③上記+②以外の</td> <td></td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>④上記+</td> <td></td> <td>79%</td> </tr> </table> <p>(kg-CO₂eq/m²・年)</p> <p>このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたWLC排出量の目安で示したものです。 ④は参考として運用分をBEI+で表示しています。</p>		①参照値	建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト	100%	②建築物の取組み		79%	③上記+②以外の		79%	④上記+		79%
①参照値	建設 修繕・更新・解体 運用 オンサイト オフサイト	100%													
②建築物の取組み		79%													
③上記+②以外の		79%													
④上記+		79%													
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)															
2-4 中項目の評価(バーチャート)		Q のスコア = 2.9													
Q 環境品質 <table border="1"> <tr> <td>Q1 室内環境</td> <td>Q2 サービス性能</td> <td>Q3 室外環境 (敷地内)</td> </tr> <tr> <td>Q1のスコア = 0.0</td> <td>Q2のスコア = 3.7</td> <td>Q3のスコア = 2.4</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)	Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.7	Q3のスコア = 2.4								
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)													
Q1のスコア = 0.0	Q2のスコア = 3.7	Q3のスコア = 2.4													
															
LR 環境負荷低減性 <table border="1"> <tr> <td>LR1 エネルギー</td> <td>LR2 資源・マテリアル</td> <td>LR3 敷地外環境</td> </tr> <tr> <td>LR1のスコア = 3.6</td> <td>LR2のスコア = 3.8</td> <td>LR3のスコア = 3.5</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>		LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	LR1のスコア = 3.6	LR2のスコア = 3.8	LR3のスコア = 3.5								
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境													
LR1のスコア = 3.6	LR2のスコア = 3.8	LR3のスコア = 3.5													
															
3 設計上の配慮事項		その他 特になし													
総合 建物外皮の負荷抑制でレベル5を獲得、リサイクル材を使用するなどし、環境に配慮		その他 特になし													
Q1 室内環境 省略		Q3 室外環境 (敷地内) 自生種の保全に配慮した緑地づくり													
LR1 エネルギー BPIm=0.71 BEIm=0.48		LR2 資源・マテリアル 車体材料以外にリサイクル材を使用し、環境に配慮													
LR3 敷地外環境 光害チェックリストの過半数を満たし、広告物照明は無し															

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

無断転載禁止

CASBEE-建築(新築)2024年版

LOGIFRONT名古屋みなと

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22

スコアシート		竣工段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能	-	-	-	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 吸音	-	-	-	-	-	-	-	
2 溫熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温	-	-	-	-	-	-	-	
2 外皮性能	-	-	-	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御	-	-	-	-	-	-	-	
2.3 空調方式	-	-	-	-	-	-	-	
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率	-	-	-	-	-	-	-	
2 方位別開口	-	-	-	-	-	-	-	
3 昼光利用設備	-	-	-	-	-	-	-	
3.2 グレア対策								
1 昼光制御	-	-	-	-	-	-	-	
3.3 照度	-	-	-	-	-	-	-	
3.4 照明制御	-	-	-	-	-	-	-	
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質	-	-	-	-	-	-	-	
4.2 換気								
1 換気量	-	-	-	-	-	-	-	
2 自然換気性能	-	-	-	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮	-	-	-	-	-	-	-	
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御	-	-	-	-	-	-	-	
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性	-	-	-	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応	-	-	-	-	-	-	-	
3 パリアフリー計画	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観	-	-	-	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	-	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 転体材料の耐用年数	-	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	屋根仕上げ材の耐用年数40年	3.1	0.50	-	-	-	-	3.1
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	耐用年数 床:15年、壁:15年、天井:30年	3.0	0.80	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要用途上位3種、2種以上B仕様、Eは不使用	3.9	0.30	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	-	3.0	0.20	-	-	-	-	
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備	-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備	-	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備	-	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	-	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備	-	-	-	-	-	-	-	

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高3.9m以上	4.3	0.50		-	4.3
	1 階高のゆとり	5.0	0.30			-	
	2 空間の形状・自由さ	5.0	0.60			-	
	3.2 荷重のゆとり	壁長さ比率0.1以下	5.0	0.40		-	
	3.3 設備の更新性	主な積載荷重4500N/m ² 以上	5.0	0.30		-	
	1 空調配管の更新性	-	3.4	0.40		-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20		-	
	3 電気配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10		-	
	4 通信配線の更新性	仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新・修繕ができる	5.0	0.10		-	
	5 設備機器の更新性	-	3.0	0.20		-	
	6 バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20		-	
Q3 敷地外環境(敷地内)			-	0.57	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出	-		2.0	0.30		-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	-		3.0	0.40		-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30		-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-		2.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.71		5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	BEI=0.48		4.0	0.50		-	4.0
集合住宅以外の評価			4.0	-		-	
集合住宅の評価			4.0	-		-	
4 効率的運用に向けた取組み			1.8	0.20		-	1.8
集合住宅以外の評価			1.8	1.00		-	
4.1 モニタリング	-		2.0	0.40		-	
4.2 運用管理体制	-		1.0	0.40		-	
4.3 非化石エネルギーの導入の拡大	-		3.0	0.10		-	
4.4 コミッシュョニングの推進	-		3.0	0.10		-	
集合住宅の評価			4.0	-		-	
4.1 モニタリング	-		4.0	-		-	
4.2 運用管理体制	-		4.0	-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.0	0.20		-	3.0
1.1 節水	-		3.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1. 雨水利用システム導入の有無	-		3.0	0.70		-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-		3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.2	0.60		-	4.2
2.1 材料使用量の削減	-		2.0	0.11		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-		3.0	0.22		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	構造耐力上主要な部分にリサイクル資材を用いている		5.0	0.22		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	リサイクル資材を3品目以上用いている		5.0	0.22		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-		-	-		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	評価する取組を2ポイント以上実施		5.0	0.22		-	
3 汚染物質含有材の使用回避			3.6	0.20		-	3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用	建具塗料、壁塗料		4.0	0.30		-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70		-	
1 消火剤	-		-	-		-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつ、GWPが低い発泡剤を用いた断熱材を使用		4.0	0.50		-	
3 冷媒	-		3.0	0.50		-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO ₂ 換算値が79%		3.8	0.33		-	3.8
2 地域環境への配慮			3.6	0.33		-	3.6
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない		5.0	0.25		-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-		3.0	0.50		-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.5	0.25		-	
1 雨水排水負荷低減	-		3.0	0.25		-	
2 汚水処理負荷抑制	-		3.0	0.25		-	
3 交通負荷抑制	評価する取組表の評価ポイントが3以上		4.0	0.25		-	
4 廃棄物処理負荷抑制	評価する取組表の評価ポイントが4以上		4.0	0.25		-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33		-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		-	
1 騒音	-		3.0	1.00		-	
2 振動	-		-	-		-	
3 悪臭	-		-	-		-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40		-	
1 風害の抑制	-		3.0	0.70		-	
2 砂塵の抑制	-		-	-		-	
3 日照阻害の抑制	-		3.0	0.30		-	
3.3 光害の抑制	光害対策ガイドラインのチェック項目の過半を満たしている		4.4	0.20		-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-		5.0	0.70		-	
2 星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-		3.0	0.30		-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画															
1.3.1 維持管理に配慮した設計	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○	-	-	○	○	○
1.3.2 維持管理用機能の確保	6.0	6.0	○	-	-	-	○	-	-	○	-	-	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	5.0	5.0	-	○	○	○	○	-	-	○	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0	6.0	-	-	2.0	-	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0	3.0	2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0	1.0	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	4.0	4.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用(直接利用)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
4.1.4 コミッショニングの推進	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 転体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	2.0	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	6.0	1.0	-	-	3.0	-	-	-	2.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	3.0	3.0	1.0	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0	4.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	2.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0	4.0	2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標**Q1 室内環境**

2.1.3 外皮性能

窓システムSC	-	窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値 (W/m ² K)	窓システム -	屋根 -	外壁 -	床 -
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -	η AH -

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 転体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用(直接利用)

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 転体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	.0m ² / 人	病床	.0m ² / 床	シングル	.0m ² ツイン	.0m ²
コンセント容量	0.0 VA/m ²					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	40 年					
想定必要間隔	15 年					
想定必要間隔	15 年					
階高	6.2m m					
壁長さ比率	6.1%					
床荷重	15000 N/m ²					

外構緑化指標	25%	建物緑化指標	0%		
空地率	20%	水平投影面積率	1%	地表面対策面積率	10%

BPI/BPI _m	0.71	断熱等性能等級	0 相当	
影響範囲の割合	0.0%		採光を満たす教室数	0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
			通風を満たす教室数	0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
			太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kWh	

BEI/BEI _m	再エネ有	0.48	無	0.48 オフサイト再エネ有	- ○OGJ/年
一次エネ削減率	再エネ有		無		-

雨水利用率	0.0%		
特定調達品目	-	エコマーク商品 タイルカーペット、岩綿断熱材の特定期目等	-
使用比率	0.0%		

オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	

見付面積比	78% 隣棟間隔指標Rw 0.98		
地表面対策面積率	10.0%	屋根表面対策面積率 #DIV/0!	外壁表面対策面積率 #DIV/0!
見付面積S _b	2,674m ²	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	118.55 m
緑地	2,279m ²	保水性対策面	m ² 高反射対策面 m ² 再帰性反射対策面 m ²